

4年 総合 福祉体験

H30.10.16

4年生は総合的な学習の時間の学習で、福祉について学習しています。今回は、下野市社会福祉協議会の職員の方々、ボランティアの方々を細谷小にお招きし、福祉体験を行いました。普段経験できない様々な体験をさせていただき、子どもたちは「共生」について深く考えることができました。今後はこの体験を、更なる福祉の学習につなげていきます。

【アイマスク・白杖体験】

目が不自由な方の疑似体験です。アイマスクをし、目が見えない状態で、白杖と友達（サポーター）の手助けを頼りに廊下を歩きました。普段何気なく行っている、水道での手洗いも行いました。「目が見えなくてもいつもやっていることは意外とできる!」「目が見えないとちょっとこわいなあ。」「サポートしてくれたからできた!」など、様々な反応がありました。



まずは、アイマスクをして、自分の名前を書いてみました。いつもより上手に書けた!なんて声もちらほら。



サポーターは、ななめ前を歩きます。優しい声かけも上手にできました。そのおかげか、障害物にぶつからずに歩けました。



こそあど言葉を使わずに指示をすることが大切だと教わりました。

【高齢者疑似体験】

高齢者（90歳程度）の疑似体験です。全身にたくさんの重りを装着し、階段の上り下りや小物の移動、辞書をめくる等の体験をしました。体験が終わると、あちらこちらから「はぁ、疲れた〜。」の声。お年寄りとの接し方を考えられました。



たくさんの器具を装着し、準備完了です。



しっかりサポートできています。
階段の上り下りもクリアできました。



小瓶からクリップやおはじきを取り出して並べたり、辞書をめくったり…。普段何気なくやっていることも、なかなか難しかったようです。

【車いす体験】

車いすに乗る体験です。車いすの開き方から閉じ方まで、丁寧に教えていただきました。スロープへ上ったり、スロープの上で方向転換をしたり、自力で車いすを操作してジグザグ走行をしたりしました。慣れない車いすを扱うのは、難しそうでした。ここでも、サポーターのあたたかな声かけが聞こえました。



車いすに足を乗せるときには、いきなり足をもち上げるのではなく、きちんと声をかけます。みんな、声かけにも慣れてきました。



準備完了！いざ出発です。



普段目になっているスロープはこのように使っているのですね。